

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390100440		
法人名	株式会社サンガジャパン		
事業所名	グループホームしもかた		
所在地	名古屋市千種区下方町3丁目13番地		
自己評価作成日	令和3年11月25日	評価結果市町村受理日	令和4年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JiqiyosyoCd=2390100440-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和4年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

デイサービスと介護付き有料老人ホームが併設された複合施設である。デイサービスにて通いで慣れ親しんだ場所に入居が可能であり、医療面のサポートが必要となれば看護師のいる有料老人ホームへ転居も可能である。コロナ禍のなか外出が難しいが、30m程の廊下をいかした歩行練習など、館内で楽しんで過ごしてもらえる支援をしている。職員へは毎月の法定研修の他、キャリアパス研修、系列施設とのウェブ研修等、研修制度は充実している。学びを共有し、入居者への支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

上野天満宮や天満緑道、千種公園や小学校などが近くにあり、四季折々の風情を楽しめる閑静な住宅地に位置している。デイサービスや介護付き有料老人ホーム、ケアマネ事業所を併設する複合施設の1階にホームがある。会社理念と組織として大切に「感動介護憲章」15か条や職員が意識すべき「行動指針」10か条の理解に努め、日々のケアに活かすことを意識して入居者の思いに添うように心がけている。町内会に加入し清掃や防災訓練、夏祭りの参加など地域との繋がりを深めたり、職員と共に上野天満宮や天満緑道に出かけ四季を感じたりしているが今年もコロナ禍の中で踏み止まっている。併設のデイサービスと合同でボランティアによる落語や南京玉すだれなどを楽しんだり、趣味の習字や絵を描いたりして交流を高齢者の憩いの場となるような取り組みを行っている。2階の広いベランダを入居者が集う憩いのガーデンスペースとして改装し、いつでも日向ぼっこや園芸などで外気浴ができるよう環境を整え春を楽しみにしている。また、ドライブで車窓から四季の花を眺めながら季節の移り変わりや街並みの風情を楽しめる日を待ちわびている。居間で、気の合う入居者同士や職員と談笑をしたり、じっくり新聞を読んだりテレビを見たりして穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念 2390100440					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に上げている	理念である「家族主義」「共に生きる」を研修を通して共有し、実践に心掛けている。	会社理念と組織として大切となる「感動介護憲章」や職員が意識すべき「クレド10か条」を玄関に掲示している。職員は、感動介護憲章やクレド10か条を指針として日々のケアに活かすことを意識し、毎朝の申し送り時に復唱している。また、毎月の職員会議や運営推進会議などで確認し、日々のケアを振り返りながら共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス流行前までは施設周辺を散歩する際などに挨拶を交わしていた。	町内会に加入し、回覧板や自治会長から情報を得ている。今年度はコロナ禍により町内の会合や町内の活動の参加を見送っている。コロナの状況を確認しながら、散歩や町内の清掃、防災訓練、夏祭りなどに参加し、地域とのつながりを継続していく予定にしている。現在は併設のデイサービスと合同でボランティアの落語や南京玉すだれの演芸を鑑賞したり、歌やゲーム、麻雀などに参加して交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2390100440-00&ServiceCd=320&Type=search	まだ活かせていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一時的にコロナウイルスが落ち着いた7月に対面での会議を行えたが、他は書面会議として活動報告書を推進委員に配布したのみで意見交換が上手くできていない。	入居者家族、自治会長の参加を得て年6回開催している。運営状況や活動内容、ヒヤリハットや事故報告及び地域への情報の提供などを議題とし、参加者からの意見や提案等はサービスの向上に活かしている。今年度は、コロナウイルスの感染状況を確認しながら書面開催4回、対面での会議2回実施している。町内の有識者には議事録を直接持参し、家族には郵送して状況を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば連絡、確認等させてもらっているが、積極的な連携は取れていない。	行政担当窓口には介護保険更新の手続きや申請の代行などで出向いたり、いきいき支援センターとは相談事やサービスの取り組みを伝えたりして情報交換をしながら協力関係を築いている。市主催のオンライン研修等の機会があれば該当する職員を指名して参加するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修で学びを共有。身体拘束をしないケアを徹底している。	3か月に1回委員会を開催している。会議前に職員から提出されたチェックシートを利用して、併設の施設と合同で拘束の対象となる具体的な行為について話し合い、拘束に対する共通の理解と、意識の統一を図る努力をしている。日常生活では、人としての尊厳を大切にして身体拘束や過剰介護、スピーチロックをしないケアに努め、見守りを重視して、自由な生活空間と束縛のない生活が送れるような環境に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修で学びを共有。日々の業務内でも虐待に繋がるような行為がないか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	保佐人が付いたご利用者がいる。 制度については研修で学びを共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族の立場に立ち、わかりやすく説明している。契約時説明の合間に何度も質問機会を設け、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者については、言葉に現れないことも見逃さぬよう努めている。 ご家族については、面会時、運営推進会議時に伺ったり、状態報告のお電話の際に要望を聞き、改善に努めている。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞き、申し送りノートに記録して職員間で共有しケアにつなげている。家族には電話で入居者の日々の様子を伝えたり要望等を聞いたりして、運営に反映させるよう努めている。コロナ禍により感染状況を確認しながら感染対策をして家族の面会に対応しているものの、現状の面会では、家族に入居者の様子や施設の状況、職員の様子などが伝わりにくい状況となっている。	コロナ禍により、面会などの制限があるため、電話連絡だけに留まらず、写真と一緒にエピソードなどのコメントを添えたり、入居者の日常の様子などを伝えたりして家族に安心が届けられるお便りを再度発行されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との交流や面談時に意見を聞く。施設長会議や運営会議等で代表者等に意見を反映させている。会社全体の相談窓口が設置されていることを周知している。	日常の業務の中や朝礼、職員会議で提案や要望など話しやすい雰囲気作りに努めている。管理者は、3か月に1回職員と面談し、資格取得や技術の向上に向けてのアドバイスや職員が設定した目標の振り返りを行っている。年2回会社代表者の評価も併せて行われている。職員用意見箱の設置や会社の相談受付窓口で直接連絡ができるシステムで、意見や要望が述べやすい環境を整えている。職員には会社の研修計画に沿って、ズームやリモートによる研修と個々の力量に合わせたテーマを選んで学ぶ機会や環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との交流や面談時に聞いた意見をもとに、職員それぞれがやりがいを持って働けるような職場環境、条件の整備に努めている。 人事考課の基準は明確にし、書面化している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加はできていないが、毎月テーマを決めて研修資料を配布したり、インターネットで研修を受講してもらっている。 資格取得の補助制度もあり、働きながらの資格取得も積極的に推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の同業者との交流はできていないが、系列の施設とインターネットで繋げ、交流しながら意見交換の場にもなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前実態調査、契約時とご本人からアセスメントを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、ご家族からも意見を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	複合施設の利点を生かしデイサービスで施設に慣れてから入居したケースもある。また、医療度が増したご利用者へは併設の有料老人ホームへの転居も可能。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の重度化に伴い、共に家事援助を行うことは少なくなったが、家族的な関係づくりを目指している。また、できる事はなるべく本人に行っていただき、役割を持ってもらう。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者同様、家族的なお付き合いをさせていただいている。通院や買い物などは無理のない程度にお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人から手紙が届く方もいるが、ご家族に頼るところが大きい。	フェイスシートから生活歴や馴染みの人や場所を把握し、これまでの生活が再現できる支援を目指している。コロナ禍のため施設内での支援を充実させるよう努めている。デイサービスには感染状況を確認しながら参加し、趣味のマージャンや演芸を見るなど馴染みの関係が途切れないような配慮と支援をしている。また、友人との手紙のやり取りや趣味の塗り絵、カラオケ、誕生会でお抹茶をたてたり、手慣れた包丁使いで料理の下ごしらえなどをしたりして、日常生活の中で今まで培ってきた経験を生かせる支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置に配慮したり、職員が間に入るなど、入居者同士が関わり合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰されるケースは少ない。 医療度が増したご利用者へは医療環境が整備された施設への転居先をご家族と話し合いながら探した。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	重度化に伴い、ご自身で意思決定ができる方は少ないが、本人本位の視点で考えるよう努めている。	入居者の気持ちに寄り添い、些細な変化を見逃すことがないように心がけたり、日常のさりげない会話、表情など、ケアの中から感じ取ったことを日誌や申し送りノートに記録して会議などで話し合い職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情から思いを把握したり家族から話を聞いたりして本人本位に検討をしてしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前実態調査時にご本人やご家族からアセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通じ、時間帯による心身状態の変化を把握し、個々に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議時、ケース会議も同時に行っている。 ご家族とは面会時や状態報告時に話し合っている。	毎月、個人記録や日誌、申し送りノートを基に、入居者の状態の変化や目標に対しての変化や成果など職員会議で集約し、月末にモニタリングをしている。6か月に1回見直しをすると同時に家族の意見や意向、医師、看護師など関係者の助言等踏まえながら、問題や課題について話し合い情報交換をして現状に即した介護計画を作成している。必要に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や日誌、申し送りノートを活用し、情報の共有化に努め、会議等で意見をまとめている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存サービスを活用。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等でボランティアを活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診、24時間の連絡体制。	入居時にかかりつけ医か提携医が聞いているが、提携医の変更により多くの診療科の往診が受けられるため全員が変更している。内科は月2回、眼科、歯科は月1回提携医による往診がある。希望によりマッサージも受けられる。専門科の受診は家族の協力を得ているが、緊急時は職員で対応している。受診結果は連絡ノートや日誌に記録して情報を共有し健康管理に努めている。身体状況に変化があった時や緊急時は、医師や訪問看護師、協力医療機関による24時間連携体制のもと、速やかに適切な医療を受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他部署の看護職員、かかりつけ医の看護職員との連携を密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーの提供や、入院後も病院のワーカーとの連絡調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を書面で提示している。また、ご本人、ご家族の意向も伺っている。かかりつけ医との連携も密にしている。	入居時に、重度化した場合や終末期について事業所でできる事の限界を説明し、家族の同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合はその都度入居者や家族に希望を再確認するとともに、医師や訪問看護師、その他関係機関と話し合いながら入居者にとって最善の援助ができるように努め可能な限り希望に添うよう支援をしている。職員のメンタルケアや看取り、また入居者の突然の事態に備えての研修や職員会議の中で話し合いながら日々のケアの大切さを重視して事業所全体で取り組む努力をしているが、職員の意識や周知度に差がみられる。	看取り対応についての研修や看取り後のメンタルケアについて話し合う機会を持ち緊急を要する事態に備え、不安のない対応ができるよう職員全員に周知されることを願いたい。また、緊急時に備えてAEDの研修も合わせて行われることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な実践訓練はできていないが、資料配布にての研修は行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間と日中の災害を想定した避難訓練を行っている。	昼間、夜間の職員体制で、火災や地震など様々な災害を想定した避難訓練を有料老人ホームと合同で年2回行っている。避難誘導や避難経路の確認や初期消火の訓練を実施し、問題点は、職員で話し合い改善に努めている。備蓄品は有料老人ホームの2階と1階の倉庫に食料や水、毛布や懐中電灯などが用意され、リスト管理して職員に周知し緊急時に備えている。施設は耐震耐火構造のため地域の一時避難所としても受け入れが可能なことを回覧板で知らせている。停電時の対応については今後の課題としている。	道幅の狭い地域に位置する事業所の災害時に注意すべき点や避難経路、地域住民や入居者の安全確保などについて指導や助言を受ける機会として、再度、消防関係者への協力依頼し、安全性の高い訓練にしていくことを期待したい。また、機器の使い方の周知や備蓄品の有効活用、災害時や停電時などのライフライン復旧までの手順やシミュレーションなど実際に役立つ訓練をしていく事を期待したい。更に、地域との連携を強化して災害時に備えるなどの協力関係を築かれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族的な対応はしているが、ちゃん付けや馴れ馴れしい言葉は慎み、自尊心を傷つけるような言動は無いように努めている。	人生の先輩として、これまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。日々のケアの中で、入居者の目線に合わせ寄り添い、言葉使いや声のトーンなど互いチェックし合える職員の関係づくりや入居者の個性や人格、相性や性差などを考慮した支援に努めている。職員は、研修マニュアルを利用して接遇などの勉強会を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に声掛けを行い、傾聴するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースで過ごしていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限りご本人の希望に沿った服装選びを行っている。 月1回、訪問理美容の実施。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化に伴い、食事作りは行っていない。 おやつ作りの行事は行っている。	管理栄養士の献立により1階の厨房で委託業者が毎食手作りしている。季節に応じたおせち料理や土用の鰻、セレクト食の日、毎月1日のお赤飯の日、15日のケーキの日などを取り入れて、食事を楽しむ工夫をしている。また、出張握りずしやデイサービスで食事を共にするなどして楽しんでいる。毎月、職員と一緒にスイーツ作りや畑で採れたナス、キュウリ、レタスなどで食卓に彩を添えている。準備や後片付けはその人の得意分野を活かし職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立作成。食事、水分摂取量の把握。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握。可能な限りトイレでの排泄を支援している。また、ご本人からトイレの訴えがあればいつでも付き添う。	排泄チェック表から排泄パターンを把握し一人ひとりに寄り添い、さりげない声かけやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導に努めている。日中は自力での排泄を目指している。夜間でも、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切にし、丁寧な見守りの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医、看護職員との協働。 食事以外にも飲水機会を増やしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	おむね入浴日は決まっているが、状況に応じて臨機応変に入浴していただいている。	入浴は週2回を目安に行っているが、希望があればいつでも入浴できる環境を整えている。館内にある大きなお風呂を毎回利用して温泉気分を楽しんでいる。お湯は循環式で温度調節やお湯の補充機能により清潔に保たれている。リフト浴で介護度の高い方も湯船につかって温まることができる。冬季は暖房機を利用してヒートショックに配慮し、ゆず湯や菖蒲湯、檜や杉、リンゴなどを利用して季節や香りを楽しみながら入浴できるように工夫をしている。入浴を拒む方には声掛けやタイミングを見計らい気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活リズムを把握し、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員とかかりつけ薬局の薬剤師による管理、指導。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のできることを役割として行っていただいている。 個々にお好きなレクがあるので、いつでも提供できるように、制作レクの材料は常備している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年もコロナウイルスの流行により外出機会は少なかったが、ベランダで日光浴を行った。 例年は可能な範囲で散歩等を行っていた。	お天気の良い日には散歩や買い物に出かけられる環境があるが、コロナ禍により自粛している。2階の広いベランダを入居者が集う憩いのガーデンスペースとして改装し、いつでも日向ぼっこや園芸などで外気浴ができるよう環境を整え、春を楽しみにしている。今までは違う形でのお花見の工夫やコロナ禍でもできる外出支援を課題としている。コロナが収束に向かえば今まで通り外食や家族の協力を得てお墓参りなどの支援をしていく予定にしている。	併設のデイサービスや有料老人施設に自由に行き来できる環境があるが、日常的に戸外に出かけられる支援には制限がある。時期や感染状況を確認しながらドライブなどで、車窓からの四季の花を眺めながら季節の移り変わりや街並みの風情を楽しむことができるような外出支援を職員で検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほぼ施設側での管理。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい時は、施設の電話を使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの飾り付け等で家庭的な雰囲気づくりに努めている。 薄手の遮光カーテンで自然の光を取り入れ、落ち着ける空間づくりに努めている。	居間と食堂がワンフロアで視線を遮るものがなく開放感がある。居間の壁紙やカーテンを新しくして適度な採光を取り入れ、明るく居心地が良い共用空間となっている。入居者と一緒に行った大作の貼り絵の干支が居間のシンボルとして壁面に飾られ、家庭的な生活空間を醸し出している。コロナ禍のため食堂の机やファー、長椅子の配置を工夫し入居者は思い思いの場所でテレビを見たり、絵を書いたり、おしゃべりをしたりしてのんびり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他部署に遊びに行ったり等、施設内は制限なく移動可能。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症についてご家族に説明し、可能な限りご本人に馴染みのある物を持ち込んでいただいている。	居室の床はカーペット敷きで滑りにくく、安全な生活環境を提供している。クローゼットと洗面台が備え付けられ、朝の歯磨きや着替え、髭剃りなど身だしなみを整えることができる。椅子やテレビ、筆筒など自宅で使用していたものを持ち込んだり、ラグマットを敷いて寝転んだりできる環境づくりや、愛着のある手作り作品や写真などを飾って自分らしく過ごせるよう配慮をしている。入居者や職員と一緒に清掃して清潔な環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、バリアフリーにて安全を確保している。		